

# 赤十字NEWS

October 2012 Vol.869  
http://www.jrc.or.jp



日本赤十字社

赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



## 藤原紀香さん 赤十字生誕の地を訪問 広報特使としての決意新たに

赤十字思想の原点を探ろうと、テレビ番組の取材を兼ねて赤十字広報特使の藤原紀香さんがイタリア(ソルフェリーノ)とスイス(ジュネーブ)を訪問(9月5〜12日)しました。「一人の人間の勇気と行動で生まれた赤十字が、いま世界に広がり大勢の人を救っている。人間を救うのは、人間なんだ。そのことに確信が持てました」と広報特使としての決意を新たにしました。(4・5面に関連記事)

©Ichigo Sugawara

イタリア・ソルフェリーノにある赤十字広場の糸杉の並木道にて

### CONTENTS

#### TOPICS 2

- 日赤キッズクロスプロジェクト被災地でアート講座
- 世界に広がる救急法 日赤が指導員派遣
- 赤十字シンポジウム2012 シエラレオネ救援金受け付け中

#### TOPICS 3

- 平和への願い、デザインで二科展で受賞作品決定
- 防災週間・救急の日 赤十字救急法をPR
- 常任理事会開催報告
- 義援金延長のお知らせ

#### SPECIAL 4 | 5

藤原紀香さんの赤十字紀行 アンリー・デュナンの足跡を訪ねて

#### AREA NEWS 6 | 7

- 徳島・富山・栃木・岡山・北海道・石川・宮城・和歌山・山口・秋田・中国/四国ブロック
- 書籍紹介
- 竜巻被害への義援金報告
- 赤十字カレンダー・手帳受付中
- プレゼント

#### WORLD 8

- シエラレオネ コレラ拡大に対策チーム派遣
- ネパール コミュニティ防災力向上支援
- シリア ICRC総裁、アサド大統領と会談
- 連載第2回 ドクター中出のカロンゴ日記

### クローズアップひと



赤十字国際委員会総裁  
ペーター・マウラー氏

#### 原点に立ち返り、赤十字の7原則に基づいた活動を

今年7月、世界の紛争地を中心に人道活動を展開する国際機関である赤十字国際委員会(ICRC・本部はジュネーブ)の総裁に就任したペーター・マウラー氏。就任直後から、内戦状態が続くシリアのアサド大統領や反政府軍の双方と会談し、シリア国民が人道的な扱いを受けるよう精力的に働きかけています。

「1859年6月のソルフェリーノの戦いで着想された赤十字が世界各国で次々に誕生したのは、赤十字運動の力の大きさを表しています。ICRCとしては、赤十字基

本7原則<sup>※</sup>を広く普及させるとともに、7原則に基づいて活動することが重要な役割だと考えています。現在、混乱を深めているシリアをはじめ、世界中で苦しんでいる人々がたくさん存在します。支援が必要とされているところで制限なく、自由に活動ができることが、赤十字にとっては大切なのです」とICRCの役割について語りました。

※人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性からなる。世界中の赤十字が共有する行動原則

#### PROFILE

1956年スイス生まれ。スイス外務省に入省後、数々の要職を歴任。2004年に国連本部スイス大使および常任代表に就いた後、2009年の国連総会において行政委員会(第5委員会)議長、国連平和構築委員会のプリンジ展開部委員長に任命される。2010年スイス外務長官を経て、2012年7月にICRC総裁に就任。



# 千葉県支部×千葉県立美術館が「夢つくり隊」 創造力のつばさ 広がるアート講座

会場一面に広げられた2000枚の円形ダンボール。切れ込みが入っているので簡単に組み合わせられます。縦横ななめにつないでいくとどんどん大きく。できあがったのは何かな? 「これは戦隊ロボだよ」「でっかいタワーだ!」。子どもたちの歓声が若手県釜石市の会場に響き渡りました。

千葉県支部が千葉県立美術館と共同で結成した「夢つくり隊」。被災地の子どもたちへに美術工作の楽しさを体験してもらおうと出前ワークショップです。8月7、8日の2日間釜石市教育委員会との共催により保育園や学童育成クラブなど市内4会場をキヤラパンしました。



隊員には支部職員と森光さんに加え、成田赤十字看護専門学校(成)の学生5人、県立美術館の3人が参加



僕にも上手に塗れるかなー。最初はちょっとドキドキの缶バッチづくり

「夢つくり隊」は、東日本大震災で寄せられた海外救援金を財源に、被災地の子どもたちに元気と笑顔を届ける「日赤キッズクロスプロジェクト」の一環として取り組まれました。芸術活動の支援効

## 「缶バッチのケア」 効果にも 大きな期待



1枚1枚がしっかり作られた夢ビルダーカード。「津波に流されないがんじょうな家」のオブジェを制作した小学生も

「夢つくり隊」は、東日本大震災で寄せられた海外救援金を財源に、被災地の子どもたちに元気と笑顔を届ける「日赤キッズクロスプロジェクト」の一環として取り組まれました。芸術活動の支援効

果について、夢つくり隊に同行した諏訪赤十字病院の臨床心理士・森光玲雄さんはこう評価します。「創作活動は、作業過程に没頭できるだけでなく、作品を見て達成感を得ることがで

き、周囲からほめてもらうことで、自己肯定感や自尊心の回復効果が期待できます。そうした意味で、夢つくり隊は効果的なこのころのケア支援活動と位置づけられます」

釜石市では「学校だけでは守ろう」と、校庭に仮設住宅を建設しませんでした。その代わりに公園や空き地のほとんどは仮設住宅で埋めつくされています。

共催した釜石市教育委員会の白石健介さんは「子どもの遊び場の多くが失われ、子どもには子どもらしく過ごす時間と空間が必要で」と夢つくり隊を共催するに至った地元ニーズを説明。

「作品制作で自分の気持ちを表現することが、新しい一歩を踏み出すきっかけになってほしい」と取り組みの手応えを語ってくれました。

## 世界に広がる救急法

# 日赤がカンボジアに指導員派遣

急病やけがなど“もしも……”のときに、人のいのちを救う「赤十字救急法」。日本赤十字社は、世界の赤十字・赤新月社が行う救急法の普及を支援しています。今年の夏もカンボジアへ2人の救急法指導員が足を運び、同国赤十字社の救急法指導者のスキルアップを図りました。



地域の人や家族による応急手当だけが最小限に食い止めるなど、救急法のニーズは高く、手当方法の説明を熱心に聞いていました

## ボランティア指導員を初派遣

カンボジア赤十字社(カンボジア赤)への救急法普及支援は4年前からスタート。今年8月上旬、福岡県支部ボランティア指導員の松嶋恵美子さんと、鹿児島支部の

中野武伸係長が派遣されました。

松嶋さんらは、カンボジア赤が実施した救急法指導者技術研修で、地元の救急法指導者へ講習の進め方などをアドバイス。同国ではまだ普及が進んでいないAED(自動体外式除細動器)の使用方法的

紹介も行いました。

カンボジア赤で救急法普及事業を担当するチャン・ソフィアさんは「救急医療体制が十分に整備されていないカンボジアでは、急な病気やけがの際、すぐに病院で治療を受けることが難しく、いのちを守るためには、救急法を用いた応急手当が必要だ」と、日赤による救急法支援に高い期待を寄せています。

鹿児島支部の中野係長は「地震が多く残っている危険な状況を聞き、日本とは違った救急法普及の必要性を知りました」と教える側にとっても学ぶ点があったことを強調。

ボランティア指導員として初めて派遣された松嶋さんは「熱心に活動するボランティアの姿勢は、国は違っても変わらぬ」と支援の手応えを語っています。

## 地域で活躍する赤十字ボランティア

救急法の普及支援事業は、平成16年から始まり、これまでにカンボジアのほか、パキスタン、東ティモール、パラオ、ミャンマー、インドネシア、スリランカへ支援を実施。今年度は、東ティモール(10月)とミャンマー(時期未定)にも指導員を派遣する予定です。両国とも救急法のニーズが極めて高く、東ティモールでの受講者はこれまでに3万人超、ミャンマーでは8万8000人以上のボランティアと地域住民が日赤の支援により救急法を受講。救急法を学んだ赤十字ボランティアが地域で救急法を広めるだけでなく、実際の人命救助に活躍するなど、住民のいのちと健康を守るうえで大きな役割を果たしています。

たすけあいを、忘れない。

## 赤十字シンポジウム 2012

赤十字シンポジウムは、日赤とNHKが年末に取り組む「海外たすけあい」のキャンペーンとして1987年から毎年開催。今年は「たすけあいを、忘れない。～今わたしたちができること～」をテーマに、世界の紛争や災害、貧困などの現状と国際援助のあり方を大人と子どもと一緒に学び、一人ひとりができることを考えていきます。皆さまぜひご参加ください。

日時 平成24年11月10日(土) 14:00～15:40  
会場 表参道ヒルズ本館地下3階 スペースオー(東京都渋谷区)

- コーディネーター 堀尾正明(フリーアナウンサー)
  - パネリスト  
山本敏晴(NPO法人宇宙船地球号事務局) / にしゃんた(落語家)  
浜島直子(モデル・タレント) / 森正尚(日本赤十字社国際救援課長)
  - お申し込み方法  
\*P C <http://www.redcross2012.org/>  
\*携 帯 <http://www.redcross2012.org/m/>  
\*F A X 03-5790-0308  
\*はがき 〒105-8521 港区芝大門1-1-3  
日本赤十字社事務局国際部「赤十字シンポジウム係」
  - 締切り  
はがき: 10月30日(火) 必着  
インターネット・FAX: 10月30日(火) 23:59まで
- 詳しくは「赤十字シンポジウム2012」特設サイトをご覧ください。  
<http://www.redcross2012.org/>  
お問い合わせ先 日本赤十字社国際部企画課 TEL03-3437-7087

## シエラレオネ 海外救援金受け付け中

コレラ感染拡大に苦しむシエラレオネでの救援活動を支援するため、救援金を受け付けています。

- シエラレオネ コレラ予防救援金  
受付期間/平成24年11月30日(金)まで  
金融機関/郵便局・ゆうちょ銀行  
口座番号/00110-2-5606  
口座名義/日本赤十字社

※振替用紙の通信欄に、「シエラレオネ救援金」と明記してください。  
※郵便局窓口での取扱いの場合、振替手数料は免除されます。  
※受領証をご希望の場合は、振替用紙の通信欄に「受領証希望」と明記のうえ、お名前、ご住所、お電話番号を記載してください。  
※銀行口座でも救援金を受け付けております。詳しくは、日本赤十字社のホームページをご覧ください。

# 平和への願いをデザインで表現

## 二科展で受賞作品決定

### 赤十字 150年



厚生労働大臣賞の受賞作品と作者の東加代子さん



赤十字150年賞受賞作品 (田口知佳子さん作)



日本赤十字社長賞受賞作品 (嘉津多実恵さん作)

「世界を支える赤十字」と50年ぶりに「再会」  
二科展で赤十字がテーマに取り上げられたのは、今回で3回目です。

東さんは「赤十字の活動は広範囲で、軽く扱えないテーマだけに、デザインの切り口に悩みました。受賞したことであらためて赤十字の重みを感じています」と受賞に当たりました。

応募作品326点の中から厚生労働大臣賞に選ばれたのは、佐賀県の東加代子さんの作品。「地球上で起きているいろいろな悲劇に対して、『人類は無防備ではない』という思いを傘で表現しました」と、平和への願いを込めてデザインしたポスターです。

「人類は無防備ではない」というメッセージを込めて  
たつての思いを語りました。

赤十字運動150周年を記念して、第97回二科展デザイン部門(特別テーマ)で公募されていた「赤十字150年」をテーマにしたポスター作品の受賞者表彰式が、9月8日に国立新美術館(東京)で行われました。

●巡回展予定

名古屋展	平成24年10月2日~14日	愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター)
大阪展	平成24年10月30日~11月11日	大阪市立美術館
京都展	平成24年11月29日~12月9日	京都市美術館
広島展	平成25年1月8日~13日	広島県立美術館
鹿児島展	平成25年3月6日~17日	鹿児島県歴史資料センター黎明館
福岡展	平成25年4月16日~21日	福岡市美術館

1回目は昭和29年、銀座のデパートで開催された春季展で、赤十字運動をテーマにしたポスターが展示されました。

2回目は昭和37年の47回展で、「赤十字運動百年祭」をテーマに開催。この時「日本赤十字社賞」を受賞した林明伸さんは、今回の97回展にも会員作品として出品しました。

現在88歳になる林さんは「50年たっても変わらないのは、『赤十字は世界を支える』ということ」と、赤十字に託す思いを地球と人の手のひらで表現しました。

C部門で入選した作品のほか、絵画、彫刻、写真などの作品が展示される第97回二科展は、国立新美術館での開催を終え、これから全国で巡回展が行われます。ぜひ足をお運びください。

「防炎フェア2012 in 横浜」(9月1~3日)でもキッズファーストエイダーが大好評。延べ700人の子どもや保護者などが救急法体験に汗を流しました。参加者からは「心臓マッサージ(胸骨圧迫)は思ったより力が要り

8月25、26日に東京・渋谷で開催された「防災パーク」(NHKなど主催)に出展した日赤ブース内では、キッズファーストエイダー(救急法体験教室)が初披露されました。

一度は体験したいと連日大盛況  
JR有楽町駅(東京都千代田区)の駅前広場で9月9、10日に開かれた「救急の日2012」(厚労省など主催)では、一度に15人ほどが参加できる10分間の体験教室が、計5時間にわたって実施されました。買い物に来て近くを



子どもも受講でき、親子で体験できるキッズファーストエイダー

「いのちを救う救急法を身近に体験してほしい」—— 防炎週間(8月30日~9月5日)と救急の日(9月9日)に合わせて、日本赤十字社は救急法のPRイベントを、東京と横浜で3週連続して開催しました。

## 防災週間・救急の日 赤十字救急法を3週連続PR 「AEDって意外と簡単!」と体験教室が大好評



「AEDは見たことはあるけれど、触るのは初めて」と真剣に練習

「1分間に100回というリズム感がつかめました」といった声がありました。体験教室で指導に当たった千葉県支部の救急法指導員・橋本奈緒美さんは、「AEDの普及が進んだことで、一度は練習したい」と、関心が高まっていることを感じます」と語り、教室の手伝いについても「救命処置を、恐い、難しい」と敬遠するアレルギーマッチに比べると思います」と力を込めました。

参加者で目立ったのは、子どもを連れただお父さん、お母さんの姿です。山田一宏さんは「子どもがいるので、もしもに備えて一度はAEDの使い方を知りたい」と思っていました」と足を止めた理由を語ります。

受講後、多くの参加者から聞かれたのが「意外と簡単でした」という声。岩手県から都内観光に来て、会場に立ち寄った渡辺ひろみさんと白井アヤ子さんは「難しいと思っていたけど、音声ガイドがあるので分かりやすかったですね」と声をそろえました。

また、前橋赤十字病院の施設整備計画、北朝鮮に埋葬されている日本人遺骨の帰還及び埋葬地への墓参りにかかる日朝赤十字意見交換、核兵器にかかる赤十字の取り組み、「東日本大震災義援金」受付期間の延長、予算の補正にかかる7月及び8月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

### 2013年3月31日まで、義援金の受付を行っています。

引き続き皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 東日本大震災義援金あて先  
【通常払込み(ゆうちょ銀行・郵便局)】  
口座記入番号 00140-8-507  
口座加入者名 日本赤十字社 東日本大震災義援金  
※ゆうちょ銀行・郵便局の貯金窓口において通常払込みをされた場合、料金(手数料)は免除されます。  
※義援金は各金融機関、クレジットカード、コンビニエンスストア、Pay-easyなどにより受け付けています。詳しくは下記お問い合わせ先、または日本赤十字社ホームページ(http://www.jrc.or.jp)をご覧ください。
- 「国内義援金」の受付・送金状況  
【受付】3,609億円 (2012年9月14日現在) ※中央共同募金会受付分を含む  
【送金】3,557億円 / 被災された15都道府県 (2012年9月14日現在)  
【配付】3,187億円 / 被災された方 (2012年8月24日現在)  
※日本赤十字社などにお寄せいただいた「義援金」は、手数料などはいただくことなく全額が被災都道府県に設置された義援金配分委員会を通じて、被災者に届けられております。  
※事務費については、日ごろから日赤を支援くださる方々からの社費(会費など)により対応しています。

日本赤十字社 東日本大震災義援金担当  
フリーダイヤル: 0120-60-0122  
(受付時間/平日 9:00 ~ 19:00、土・日・祝日 9:00 ~ 17:30)  
Eメール: info@jrc.or.jp

### 常任理事会開催報告

平成24年9月14日、東京プリンスホテルにおいて平成24年度第5回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

記

付議事項

- 1 予算の補正について  
(愛知県支部の名古屋第二赤十字病院に対する寄付金の繰出にかかる一般会計歳入歳出予算の補正、名古屋第二赤十字病院の医療機器整備にかかる医療施設特別会計歳入歳出予算の補正)
- 2 資金の借入について  
(秋田赤十字病院の電子カルテシステム等更新整備にかかる資金の借入) 審議の結果、予算の補正及び資金の借入については、原案のとおり議決されました。

また、前橋赤十字病院の施設整備計画、北朝鮮に埋葬されている日本人遺骨の帰還及び埋葬地への墓参りにかかる日朝赤十字意見交換、核兵器にかかる赤十字の取り組み、「東日本大震災義援金」受付期間の延長、予算の補正にかかる7月及び8月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

# 赤十字広報特使 藤原紀香さんの赤十字紀行 ソルフェリーノからジュネーブへ

## アンリー・デュナンの足跡を訪ねて



スイス国旗、ジュネーブの旗がなびく旧市街には、赤十字ゆかりの建物や記念碑が数多く存在



ヨーロッパを東西に横切るアルプス山脈。フランス、イタリアの国境にそびえるモンブランは同山脈の最高峰(4808m)



ソルフェリーノの塔頂からは辺り一面が見渡せる。ここで熾烈な戦いが展開された

世界最大の人道支援団体として、紛争や災害、貧困などの現場で救護・救援活動を展開する赤十字。その発祥のきっかけは今から153年前、アンリー・デュナンが戦場で実践した「敵味方の区別のない救護活動」にまでさかのぼります。デュナンを駆り立てたものは何だったのか？ 赤十字広報特使の藤原紀香さんが、戦場の地ソルフェリーノを出発点に、赤十字誕生に至る軌跡をたどりました。



### 「人間を救うのは、人間だ。その意味をあらためて実感しました」



ICRC本部でベーター・マウラー総裁と、「人道理念を推進するため、ビジョン実現の組織をつくりあげたことがデュナンの功績です」



187の国と地域が加盟するIFRCの本部。現在、IFRCの会長は日赤の近衛忠輝社長が務める

赤十字は第一次世界大戦をきっかけに平時事業にその活動を本格的に広げていきます。そのための国際組織として結成されたのが赤十字社連盟(現・国際赤十字・赤新月社連盟 I F R C)でした。東日本大震災でも各国赤十字社・赤新月社などから98.1億円(8月末現在)の救援金が日赤に寄せられています。今回の取材について藤原さんはこう振り返ります。「苦しい人々を救いたい」という一人の情熱が、時代と場所を超えて世界に広がってきたんですね。人間ってすごい。人間を救うのは、人間だ。その意味をあらためて実感しました」

### デュナンの情熱は世界に、日本に

その訴えは欧州各国に広がり、わずか1年後の1863年、スイスの著名な軍人、医者、法律学者、デュナンによる「5人委員会」(後の赤十字国際委員会 I C R C)の結成に至ります。デュナンは、アルプスの山を見上げるたびに、山の向こうで起きた惨劇を思い出していたのかもしれない。実際、デュナンは戦場での体験が頭から離れず、3年後の1862年、『ソルフェリーノの思い出』を出版。負傷兵の救護組織を平時からつくり、その活動を国際条約で保障することを提案したのです。

### スイスから戦場への思いを馳せ

スイスの南東にあるアルプス山脈。モンブランなどの山々の向こうにソルフェリーノがあります。デュナンも越えた道をたどってジュネーブに着いた藤原さんは思いを馳せます。



当時の救護活動の精神を受け継ぐ地元赤十字では、高齢者へ食事を配膳し、話を聞くボランティア活動を行っている。藤原さんも一日ボランティア体験



キエザ・マッジョレ教会の神父は、地元女性の献身的な活動も赤十字の礎となったことを強調



納骨堂には、ソルフェリーノの戦いで亡くなった兵士の遺骨が壁一面に並べられている

### 「ソルフェリーノには赤十字の思想につながる原点があるのですね」



アンリー・デュナン (1828~1910)

銀行員を経て、製粉会社を興す。その仕事のからみで立ち寄った場所がソルフェリーノでした。赤十字創設後、事業に失敗し、不遇な後半生を強いられます。しかし、ハイデンの老人病院で生活していた1895年、そのことを伝える新聞記事により再び注目を集め、1901年に第1回ノーベル平和賞を受賞。

「ソルフェリーノの思い出」を偶然目の当たりにしたのがスイス人実業家のアンリー・デュナンでした。「兵士は、進路をさえぎる者を皆殺しにする。敵軍の負傷者を、冷酷に銃床で殴り殺していくのだ」(『ソルフェリーノの思い出』より)。「遺骨をこのようにあえて残すことで伝わるものがあると思えます。赤十字の思想につながる原点がここにあるのですね」この「ソルフェリーノの戦い」を偶然目の当たりにしたのがスイス人実業家のアンリー・デュナンでした。「兵士は、進路をさえぎる者を皆殺しにする。敵軍の負傷者を、冷酷に銃床で殴り殺していくのだ」(『ソルフェリーノの思い出』より)。「遺骨をこのようにあえて残すことで伝わるものがあると思えます。赤十字の思想につながる原点がここにあるのですね」

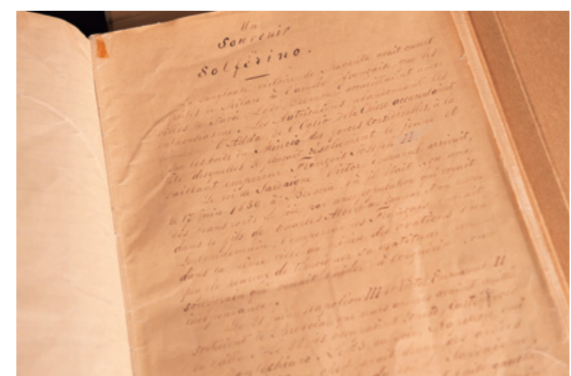
### 救護活動の合言葉は「みな兄弟」

キエザ・マッジョレ教会はデュナンが救護活動を行った場所。周囲は数千人もの負傷者であふれ、教会の中にも数百人が横たえられていました。藤原さんに教会を案内したスバーニャ神父は「近くの婦人たちがデュナンとともに負傷した兵士を差別することなく看護しました。敵側のオーストリア兵も含めてです。『トウッティ・フラテリ(みな兄弟)』が婦人たちの合言葉でした」と説明します。しかし、薬も人手も十分ではなく、満足な救護ができないことにデュナンは悩んでいました。「自分はほとんど何もすることができない」とその苦悩を後につづっています。

### 惨状を目の当たりにして

のどかな田園風景が広がる北イタリアのソルフェリーノ。1859年6月24日、イタリア統一を目指すフランスなどの連合軍と、オーストリア軍とがここで激突しました。30万人を超す兵士たちが激しい戦いを繰り広げ、死傷者は1日で4万人。戦いでいのちを落した名もない兵士の遺骨が整然と並べられた納骨堂に足を踏み入れると、戦場の凄惨さが胸に迫ります。「どう言葉に表していいのかわからない」と衝撃を受ける藤原さん。「遺骨をこのようにあえて残すことで伝わるものがあると思えます。赤十字の思想につながる原点がここにあるのですね」この「ソルフェリーノの戦い」を偶然目の当たりにしたのがスイス人実業家のアンリー・デュナンでした。「兵士は、進路をさえぎる者を皆殺しにする。敵軍の負傷者を、冷酷に銃床で殴り殺していくのだ」(『ソルフェリーノの思い出』より)。「遺骨をこのようにあえて残すことで伝わるものがあると思えます。赤十字の思想につながる原点がここにあるのですね」

### 赤十字誕生につながった「ソルフェリーノの思い出」



自費出版により初版1600部が印刷された『ソルフェリーノの思い出』。克明に記された戦場の凄惨な様子は、救護組織の必要性に説得力を持たせたもので、その内容はまたたく間に各国政府や知識人に広まった。写真は、ジュネーブ市立図書館に保管されているデュナン直筆の第二版原本。現存する原本としては最古のもの

### ジュネーブ条約と赤十字

5人委員会は欧州各国の代表による国際会議を1863年10月に開催。「10カ条の規約」が採決されます。この規約により、各国での戦時救護団体の組織化、救護者や野戦病院の「中立」、中立の標章としての赤十字マーク制定などが決められました。翌1864年、スイス政府招集による国際会議が開かれ、「10カ条の規約」を基礎とする「ジュネーブ条約」に12カ国がサイン。ここに国際赤十字組織が正式に誕生することになったのです。



1864年、欧州12カ国が戦時国際法の「ジュネーブ条約」に調印したアラバマ・ルーム(ジュネーブ市役所内)

### 窒息事故から子どもを守ろう 幼児安全法講習を開催



栃木県

2012.8~9



人形を用いて、ちから加減などきめ細かい練習を実施

乳幼児が白玉を喉に詰まらせる窒息事故が東京都、栃木県内の保育所で相次いだことを受け、県支部では栃木市全域の幼稚園・保育園の職員を対象にした幼児安全法講習を開催し、調理師を除く全職員170人が参加しました。

講習は、喉に詰まらせた異物を取り除く「気道異物除去」が中心。意識を失っているケースを想定し、心肺蘇生についての実技も行われました。

グループワークでは、事故発生時の危険性や事故防止の取り組みについての情報共有も。事故発生時の対応に加え、どう予防していくのかについての意識を高められたと参加者から好評を得ました。

日赤では「幼児安全法講習」を全国で開催しています。お子さんと一緒に受講できるワンポイント講習から、子どもの心肺蘇生なども含めた支援員、指導員養成講習まで、目的に応じた内容を用意。日時や内容など詳細については、各都道府県支部までお問い合わせください。  
ナビダイヤル ☎0570-009595

### 夏祭り大作戦 踊る赤十字 踊って健診・熱中症予防もPR

徳島県/富山県

2012.8

徳島の真夏の祭典「阿波おどり」。最終日の8月15日には県支部、徳島赤十字病院など「日赤連」約120人が演舞場3カ所で乱舞を繰り広げました。

県支部長を務める飯泉嘉門徳島県知事や日浅芳一院長を先頭に医師・研修医らがエネルギッシュでイキのいい男踊り、研修看護師らは艶やかな女踊りを披露。阿波踊り健診のキャラクター「踊る血管くん」も観客を魅了しました。

「踊る血管 阿波踊り健診」は全身の血管をチェックするドックと阿波踊り体験を組み合わせた徳島赤十字病院ならではの健診。演舞場で挨拶した飯泉支部長は大観衆に向かって、「皆さん、血管は健康ですか?」と語りかけ、健診の重要性和赤十字活動への協力を呼びかけました。



日赤連を先導する飯泉嘉門支部長(中央)、日浅芳一院長(左)と踊る血管くん(右)が、赤十字と血管健診をPR

「防ぐぞ!熱中症 水分、塩分補給をこまめに行いましょう」といううちうちんを持った副院長を先頭に、富山赤十字病院は8月4日の「第52回富山まつり」に参加。越中おわら踊りの街流しで赤十字をPRしました。



浴衣の袖に赤十字マークがキラリ! 印象的です

赤十字マーク入りのそろいの浴衣と団扇(編み笠)を身にまとったのは、医師、看護師、事務職員など各職種の代表67人。参加者のほとんどが初めて踊る初心者でしたが、出演した22チーム(約1500人)中、同院は「一般団体の部」の優秀賞を獲得。祭りの後は、「地元のイベントに参加できて良かった!」「来年はもっと練習して、もっと大勢で出場しよう」と意欲的な意見で盛り上がりました。

### 青少年赤十字が夏の国際交流 相互理解と親善を深めよう



石川県/宮城県

2012.7~8

中国紅十字会江蘇省支部の青少年赤十字(JRC)メンバーら8人が7月下旬、国際交流事業として石川県を訪問。同県 JRC 高校生メンバーと交流を深めました。

訪問団は、石川県立金沢学院東高等学校を訪問し、日本の JRC メンバーによる和太鼓演奏などを通して交流を深めたほか、餅つきや琴の演奏など日本文化も体験。訪問団の王易成さんは「(訪問先で)大切な帽子を落としてしまっがっかりしていたら、次の日には手元に戻ってきた。日本人の優しさや気配りを感じて、とてもうれしかった」と笑顔で母国に帰りました。



日中両国の学生が力を合わせた記念植樹

宮城県の中高校生 JRC メンバー 14人が8月14日から20日までタイを訪問。アジアで多発する自然災害からの復興をテーマに、同国の JRC メンバーとの交流を行いました。

タイも昨年の大洪水で甚大な被害を被っています。日本の JRC メンバーが東日本大震災の被害状況やボランティア活動について写真を用いて紹介すると、タイのメンバーは食い入るように発表に聞き入り、ディスカッションでは被災時の活動に関する活発な意見が飛び交いました。「赤十字の活動は国内にとどまらないんだと実感した。こうした国際交流で築いた関係が、災害時の助け合いにつながると思う」と、参加した JRC メンバーにとって今回のタイ訪問は世界に目を向ける契機になったようです。



交流会ではタイ舞踊体験も。独特の手の動かし方が難しい!

### 津波災害に備え総合訓練 赤十字飛行隊も出動



岡山県

2012.9.2

平成24年度大規模津波防災総合訓練が9月2日、岡山市の岡山港を会場に実施され、赤十字ボランティアら51人が参加しました。

「被災地で血液が不足し、緊急で血液供給が必要」との想定の下、赤十字飛行隊岡山支隊の水上ヘリが出動し、市消防局の水上バイクとの連携で輸血用血液の輸送に当たりました。会場の赤十字広報ブースには県支部保有の多目的救急車なども展示。災害に対する赤十字の備えに参加者の関心が集まりました。



救護所に運び込まれた傷病者役の参加者の治療に当たる日赤職員

### 有珠山噴火想定し訓練 「こころのケア」研修も



北海道

2012.9.3~5

道内の大規模災害を想定した災害救護訓練が伊達市内で実施されました。西胆振消防組合消防本部などの協力を得て、約200人が参加。東

日本大震災における課題を反映した訓練にするため、石巻赤十字病院の災害救護係長による「外からの医療チームとの協同活動」をテーマにした講演も行われました。

有珠山噴火を想定した実働訓練では、dERU(移動式仮設診療所)を展開。傷病者の受け入れ訓練のほか、被災者の気持ちにどう寄り添うかを学ぶ「こころのケア研修」や「ノルディックウォーキング体験」などを実施しました。



災害拠点病院に指定された伊達赤十字病院の災害対応の強化も訓練の大きな目的

# 書籍紹介

## 『赤十字標章の歴史 “人道のシンボル”をめぐる国家の攻防』

戦場で医療要員などを保護する国際的標章である赤十字標章は、赤十字の創始者アンリー・デュナンの祖国スイスに敬意を表して、スイスの国旗の色を逆転して採用された、宗教的な意味のない標章とされてきました。

しかし今日、赤新月標章やレッドクリスタル標章の使用も認められています。世界共通の統一標章が望ましいはずなのに、なぜ三つの標章が並存するようになったのか。本書はその経緯を示す中で、「人道のシンボル」を巡り国家の攻防の歴史があったことを解き明かします。著者は赤十字国際委員会法務原則部次長などを歴任した国際赤十字の重鎮。



フランソワ・ブニオン著 井上忠男訳 (124ページ)  
●お問い合わせは 東信堂(☎03-3818-5521)

### 竜巻災害への義援金 ご協力ありがとうございました

今年5月に茨城県つくば市や栃木県益子町などを襲った竜巻災害への義援金にご協力いただき、心より感謝申し上げます(7月31日で受付終了)。皆さまから寄せられた義援金額は以下の通りです。茨城県、栃木県に設置された義援金配分委員会を通じて全額を被災者の方々にお届けします。

- ・茨城竜巻災害義援金 **4549万2169円** (3033件)
- ・栃木竜巻災害義援金 **4232万0084円** (878件)

### 予約受付中!

## 2013年版 赤十字カレンダー&赤十字手帳

赤十字カレンダー (限定3000部)

世界の赤十字社が過去に作成したポスターと現在の写真を用い、各国の赤十字活動をお伝えます。



・ヘッダー綴じ壁掛けカレンダー  
・約45cm×30cm、13枚綴り  
・1部900円(消費税込・送料別)

赤十字手帳 (限定3万1000冊)

毎年ご愛顧をいただいている赤十字情報の掲載されたコンパクトでスリムな赤十字手帳です。



・赤白リバーシブルカバー  
・別冊赤十字便覧付  
・約15cm×9cm  
・1冊300円(消費税込・送料別)

### お申込方法

- ・ホームページ / <http://www.nisseki-service.com>
- ・FAX / 03-3459-1432
- ・メール / [info@nisseki-service.com](mailto:info@nisseki-service.com)
- ・電話 / 03-3437-7516
- ・ご来店 / 日本赤十字社本社1階
- ・郵送 / 〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-3 (株)日赤サービス

お申込の際は、ご希望の商品名、部数、お名前(ふりがな)、電話番号、送付先住所(郵便番号含む)をお知らせください。  
※カレンダー、手帳ともに11月下旬発送予定です。カレンダー、手帳ともに数に限りがあり、無くなり次第販売終了となります。  
詳細は(株)日赤サービスホームページにて <http://www.nisseki-service.com>

## プレゼント

イタリア・ソルフェリーノにある赤十字国際博物館オリジナルマグカップを2名様にプレゼントします。以下を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。



赤十字国際博物館限定グッズです

- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS 10月号を手にされた場所(例/献血ルーム)
- ⑥赤十字NEWSへのご意見・ご感想や、扱ってほしいテーマなど

応募先 ● 郵送 / 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 日本赤十字社 企画広報室 赤十字NEWS 10月号プレゼント係  
FAX / 03-3432-5507  
メール / [koho@jrc.or.jp](mailto:koho@jrc.or.jp) (件名「赤十字NEWS 10月号プレゼント係」)

応募締切 ● 10月29日(月) 必着  
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

### AKB48

#### メールマガジンの登録受付中!

日本赤十字社のメールマガジンでは、日赤のさまざまな活動や都道府県支部ごとのイベント案内、お役立ち情報などをお届けします。また、オフィシャルメッセージャーであるAKB48の特設サイトでは、スペシャルコンテンツを随時更新。メルマガ登録がまだお済みでない方は、ぜひご登録ください。今すぐ [www.jrc-akb48.jp](http://www.jrc-akb48.jp)



facebookに日赤公式ページができました。東日本大震災での取り組みをはじめ、とっさの手当や献血のこと、国内外の活動現場の写真など赤十字ならではの最新情報を発信していますので、ぜひご覧ください!  
<http://www.facebook.com/japaneseredcross>

## 専門外来を新設 きめ細やかな対応可能に



和歌山県/山口県  
2012.8

和歌山市内では初となるトラベルクリニック(渡航外来)が和歌山医療センターに新設されました。海外渡航者の健康管理を目的とした専門外来です。

年間約1600万人が海外旅行に出かける中、海外渡航者の健康管理が重要な課題になっています。トラベルクリニックでは、専門資格(国際旅行医学会旅行医学認定TM)を有し、海外で医療経験を積んだ医師などが、各種ワクチン接種やマラリア予防内服などを含めた渡航に関する医学的アドバイスを行うほか、帰国後の発熱や下痢など渡航との関連が疑われるような疾患にも対応します。

海外に初めて訪れる人や途上国に出張するビジネスマン、留学を控えた学生などが来院。渡航先で流行している感染症情報なども伝えています。



診察日は月・木曜日の10~16時(予約制)。渡航後の発熱などを除き保険診療外



相談料は無料。一人ひとりに時間をかけるため要予約

小野田赤十字病院で8月13日、「摂食・嚥下相談外来」と「がん看護相談外来」の開設式が行われました。医師に聞きづらいことや日常生活で困っていることを気軽に相談してもらおうと設置したもので、認定看護師や専門的知識・技術を持つ看護師が対応します。

県内で初めて設置された摂食・嚥下相談外来は、「飲み込みが悪くなった」「水分にむせやすくなった」などの不安を持つ人や障害がある人、その家族が対象です。また、がん看護相談外来はがんの告知や再発についての不安、治療内容、セルフケア、副作用の対処方法、経済的不安など、がんに関するあらゆる不安や悩み事についてうかがい、一緒に解決を目指します。

## 憧れのフライトナース 高校生がドクヘリ見学



秋田県  
2012.8.4

日本赤十字秋田看護大学・同短期大学のオープンキャンパスに東北各県などから過去最高の300人を超える受験生と保護者が参加。今回のオープンキャンパスの目玉

になったのがドクターヘリの見学会です。「空飛ぶ救命室」ともいわれるドクターヘリは、今年1月から看護大学に隣接する秋田赤十字病院に配備されています。見学会ではドクターヘリに搭乗しているフライトドクターやフライトナースらが役割や運航体制などを説明。看護師・介護福祉士を目指す受験生たちからは「どうしたらフライトナースになれるか?」「自分は高所恐怖症だけど大丈夫ですか?」など熱心な質問が出されました。



受験生からは「フライトナースになりたいので、赤十字を目指します」との声も

## ブロック血液センター 新社屋での運営スタート



中国/四国ブロック  
2012.10.1

中国、四国地方9県をカバーする中四国ブロック血液センターが広島市内の新社屋での運営を10月1日から開始しました。新社屋は、広島県赤十字血液センターとの合同社屋で、広島赤十字・原爆病院に隣接して建設されたものです。



新社屋内の赤十字プラザは今冬オープン。「観て」「触れて」「体験」できる体験型施設

日本赤十字社では、血液製剤の「安全性の向上」と「安定供給の確保」を目指し、広域的なブロックを単位とする広域事業体制を今年4月からスタートさせました。献血の実施と血液製剤の供給は、各県血液センターが担当し、ブロック血液センターは血液検査業務や製剤業務を担います。中四国ブロックでは、検査業務を広島、製剤業務を広島と香川に集約。中四国ブロック血液センターは、年間約50万人分の献血血液を受け入れる予定です。

# WORLD NEWS



## ネパール

### コミュニティの防災力向上を支援

ネパール連邦民主共和国では、頻発する自然災害が貧困の原因の一つとなっています。日赤は、同国の重要課題となっている防災事業の支援をこのほど開始しました。

#### 住民主導の災害対策を後押し

世界最高峰のエベレスト山で名高いネパール。モンスーン期には洪水など自然災害が多発し、世界の「災害多発20カ国」の一つに挙げられています。また、近い将来には大規模地震の発生が危惧されており、地域社会での災害対策が重要な課題となっています。

ネパール赤十字社は災害対策事業を主要活動としていますが、世界からの支援が欠かせません。日本赤十字社は、これまでネパールの飲料水供給事業の支援などで培ってきた良好な関係を活かし、急務であるコミュニティ防災事業を支援していきます。

#### 藤巻三洋駐在員の現地報告

雨期の間、洪水で水かさの増した川を子どもたちは泳いで通学せざるを得ない地域もあり、毎年数人がいのちを落としています。ネパールの防災意識はコミュニティレベルではまだ根付いておらず、課題は山積みですが、ネパール赤十字社の仲間と二人三脚でしっかり取り組んでいきます。



雨期には洪水が各地で発生。ヒマラヤ山脈氷河が溶け出し洪水被害は年々拡大しています

## シリア

### マウラーICRC新総裁がアサド大統領と会談

赤十字国際委員会(ICRC)のペーター・マウラー総裁が9月4日、内戦が激化するシリアのアサド大統領と首都ダマスカスで会談し、悪化し続ける人道状況の改善などについて話し合いました。

7月に就任したマウラー総裁にとって、シリア訪問は初めての外交ミッション。会談では市民に医療を提供するためのスタッフの安全確保など、人道活動を迅速に進める必要があることを訴え、大統領は「赤十字が中立である限り、活動を歓迎する」と応じました。

ICRCはシリア赤新月社に協力し、緊急支援物資の配付などを行ってきましたが、戦闘の激化に伴い死傷者数や周辺国に脱出する難民の数は過去最悪の状況に。同赤新月社の救急車が攻撃されてスタッフが死亡する事件も相次いでいます。

## シエラレオネ

### コレラ拡大で1万6000人超の感染者 海外赤十字社が対策チームを派遣

コレラ感染が拡大した西アフリカのシエラレオネ共和国に、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)の基礎保健チームなどが出動。日本赤十字社からも和歌山医療センターの大津聡子医師(感染症科部長)が8月末から9月中旬まで派遣され、感染者治療に当たりました。

同国のコレラ禍は雨期に入った7月から拡大。大津医師は「雨期のシエラレオネは、舗装されていない道が大雨でぬかるみ、車を走らせることも大変。コレラ菌は水を媒介して感染するため、汚染された水が一面を覆うと急速にまん延します」と



現地の地域病院で感染者治療に当たる大津医師

感染拡大の背景を説明します。9月8日現在で、感染は1万6000件を突破し、死亡者は256人に上りました。

シエラレオネ赤十字社は、国際的な支援の下、被害が

深刻な地域の約36万世帯を対象に、感染予防活動やコレラ対応キットの配付などを実施。研修を受けた約600人のボランティアがその活動の中心を担いました。

#### 立ち遅れる院内の感染対策

しかし、同国赤十字社の取り組みだけでは感染に歯止めがかからず、IFRCは基礎保健および給水・衛生の緊急対応ユニット(ERU)の派遣を決定。コレラ治療に当たるフィンランド赤十字社と日赤の合同チーム、給水・衛生環境改善を行うイギリス赤十字社のチームなどが8月下旬から現地入りし、活動しました。

北部ボンバリ地区のマケニ地域病院コレラ病棟で診療活動を行った大津医師は「地域病院とはいえ医師の姿はほとんどなく、看護師のやる気が病院を支えているようです」とぎりぎりの医療体制について報告。さらに「手を洗う水がなかったり、アルコール綿がないので注射針を刺す際の皮膚の消毒もなし。針をベッドや床に放置するなど、院内の感染対策に対する意識が驚くほど低いのが実態です」と課題を指摘します。

9月の中旬になり、コレラ感染の拡大は鎮静化しつつありますが、給水・衛生環境の整備など根本的な対策が不可欠。大津医師は「看護師に基本的な感染対策の教育を実施するなど長期的支援の検討も」と訴えています。

## 第2回

### ドクター中出の カロンゴ日記



#### 中出 雅治(外科医)

1959年生まれ。大阪赤十字病院 国際医療救済部長。専門は呼吸器外科、災害・戦傷外科。インドネシア、パキスタン、ハイチ、イラク、ネパールなどで活動。ウガンダには、計5回、延べ14カ月滞在。

日本赤十字社が2010年4月から取り組む「ウガンダ北部地区病院支援事業」。活動拠点のアンボロソリ医師記念病院(通称カロンゴ病院)での日々を中出医師が報告します。

### 内戦の见えない傷痕

カロンゴの見どころはなんといってもカロンゴヒル。頂上からは、ウガンダ北部を見渡す展望を楽しめます。カロンゴ教会も見逃せません。正面ですが、ここはホンマにカロンゴか? というくらいきれいな建物(裏に回るとダメ)です。

地元のアチョリ料理を食べさせてくれるレストランもあります。そんな店の一つが「マルチチョイスレストラン」。名前につられてよく足を運びましたが、「チキンとライス」を張り切って注文しても「今日はヤギしかないねん」という日も。「どこがマルチチョイスやねん!」と突っ込みたくなることもしばしばです。

#### 銃弾の破片に内戦の記憶

こうした日常の中にと、2008年まで20年以上続いた内戦下の生活を想像できません。医療支援事業を始めた2年前には、難民キャンプが近隣にいくつも残っていましたが、今はみんな元の村に戻っており、内戦の爪痕はますます見えにくくなりました。

ところが病院では、患者さんを通じて内戦の悲惨さを突然突きつけられることがあります。例えば、10歳のジャクリンちゃん。2歳の時に腹部に銃弾を受け、腸管を損傷した彼女は、人工肛門の生活を8年間も送ってきました。腸管自体は治っているので、人工肛門を閉じる手術をすれば普通の生活に戻れるのですが、この地方に外科医が

毎朝6時前に鳴らされる教会の鐘が目覚まし時計



いなかったため、それができなかったのです。

紛争中に受けた銃弾や砲弾の破片を取ってほしいという人も来ます。たいていは小さい破片で、医学的には痛くもかゆくもないはず。手術の必要はないのにと感じていたが、ある時、「これを取らないと彼らにとっての内戦は終わらないということなのかもしれない」と気づきました。

#### 夜間シェルターだった病院

病院スタッフの多くも内戦下で育って来ました。内戦の間、夜になると数千人の住民が金網のフェンスで囲われているカロンゴ病院に入り、病棟のベランダや庭でぎゅうぎゅう詰めに寝ていたそうです。

この病院で研修医として学び、今は一般医として外科病棟を担当するオケロは隣県出身ですが、やはり夜になると家族全員で政府管理のシェルターに駆け込む毎日。20年間、国連やNGOが配給する豆ばかり食べ続けたこと、内戦で多くの友人を失ったことなどを、ごく普通の会話のトーンで話す彼らの胸の内はうかがい知れません。

そんな状況下での勉強はさぞ大変だったと思いますが、「医科大学の授業料はどうしたんや」と聞くと、オケロは「政府の奨学金をもらって通ってた」。「じゃあ、さぞかしい成績やったんやね」と感心すると、この時ばかりはちょっと照れながらうなずいていました。